

阿 蘇 山

火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

概 況

中岳第一火口の湯だまりの量は、8日にそれまでの約4割から約3割に減少しました。湯だまりの色は灰色で、湯だまりの温度は70前後の高い状態が続いています。湯だまりの中央部で高さ約10m、その他数ヶ所で2～3mの土砂噴出を観測しています。

孤立型微動は1日あたり29～120回で、やや増加しています。B型地震は1日あたり18～65回で、やや多い状態で推移しました。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量、噴煙高度の最高は19日の600m(2月:500m)で、特に異常は認められませんでした(図1、図2)。

地震・微動活動の状況

孤立型微動は1日あたり29～120回で、月合計は2,260回(2月:1,740回)とやや増加しています(図1～3)。継続時間の短い火山性微動(2月:4回)、および火山性連続微動はありませんでした(図3)。A型地震の月合計は88回(2月:103回)で、うち26個の地震の震源が求まり、多くは中岳第一火口付近のごく浅い所に分布しました(図1、図2、図4)。B型地震は1日あたり18～65回で、月合計は1,024回(2月:808回)と前月に引き続きやや多い状態でした(図1、図2)。

火口や噴気地帯の状況

中岳第一火口内の湯だまりの中央部で約10m、その他数ヶ所で2～3mの土砂噴出を観測しています(図5)。湯だまりの色は灰色で、湯だまりの量は2月14日に約4割となり、3月8日には約3割に減少しました。また、噴湯現象は湯だまりの数ヶ所で引き続き観測しています。

湯だまりの表面温度は68～77(最高16日)で、高い状態が続いています(図1)。南側火口壁下の温度は、16日に114でした(図1)。

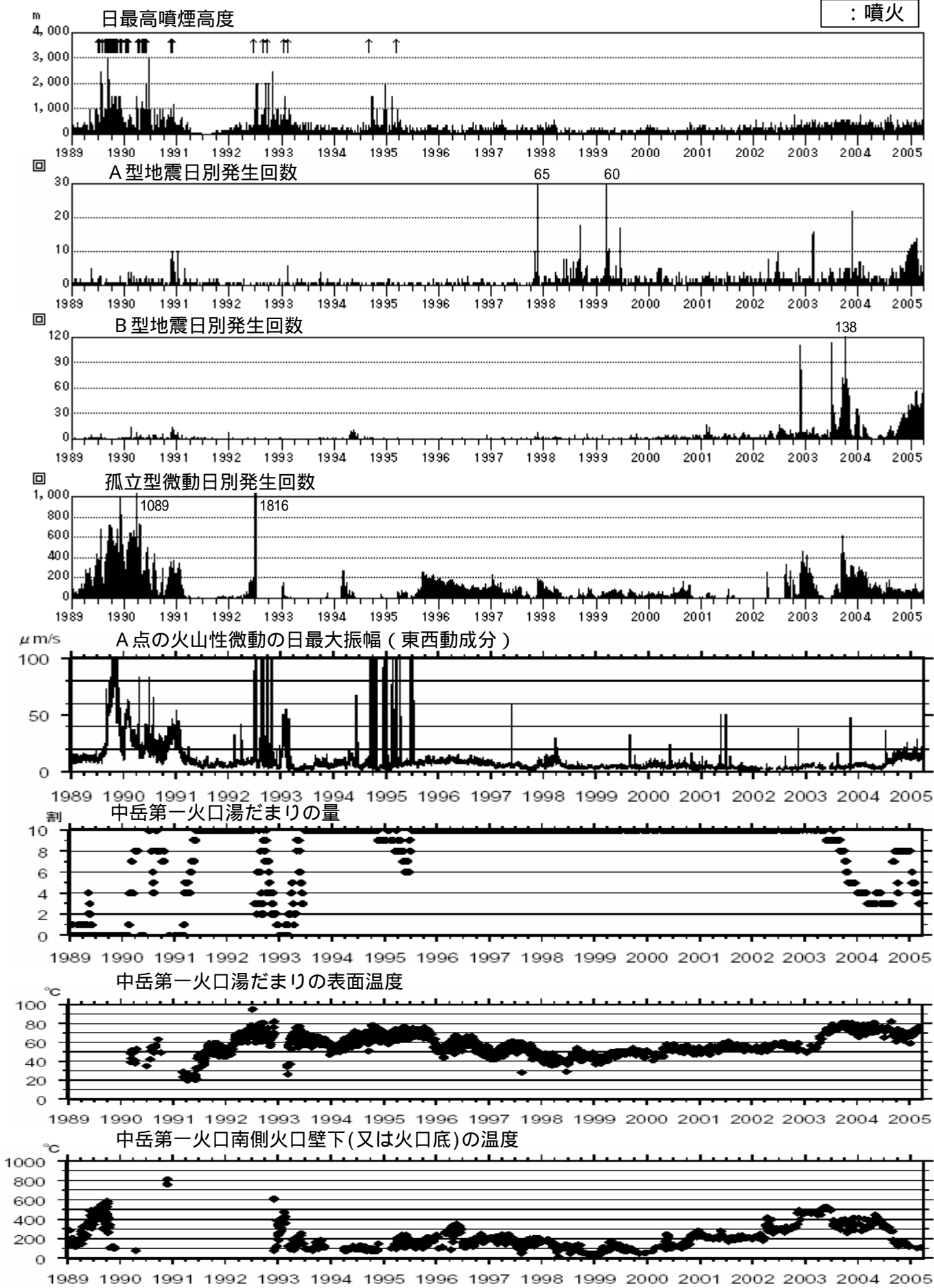
(温度測定は、赤外放射温度計による)

地殻変動の状況

GPSによる地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図6)。

また、29～31日に実施したGPS繰り返し観測では、阿蘇山測候所(G0)と中岳火口第一火口周辺の観測点(G1～G6)間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図7、図8)。

：噴火



阿蘇山 図1 火山活動経過図(1989年1月1日~2005年3月31日)

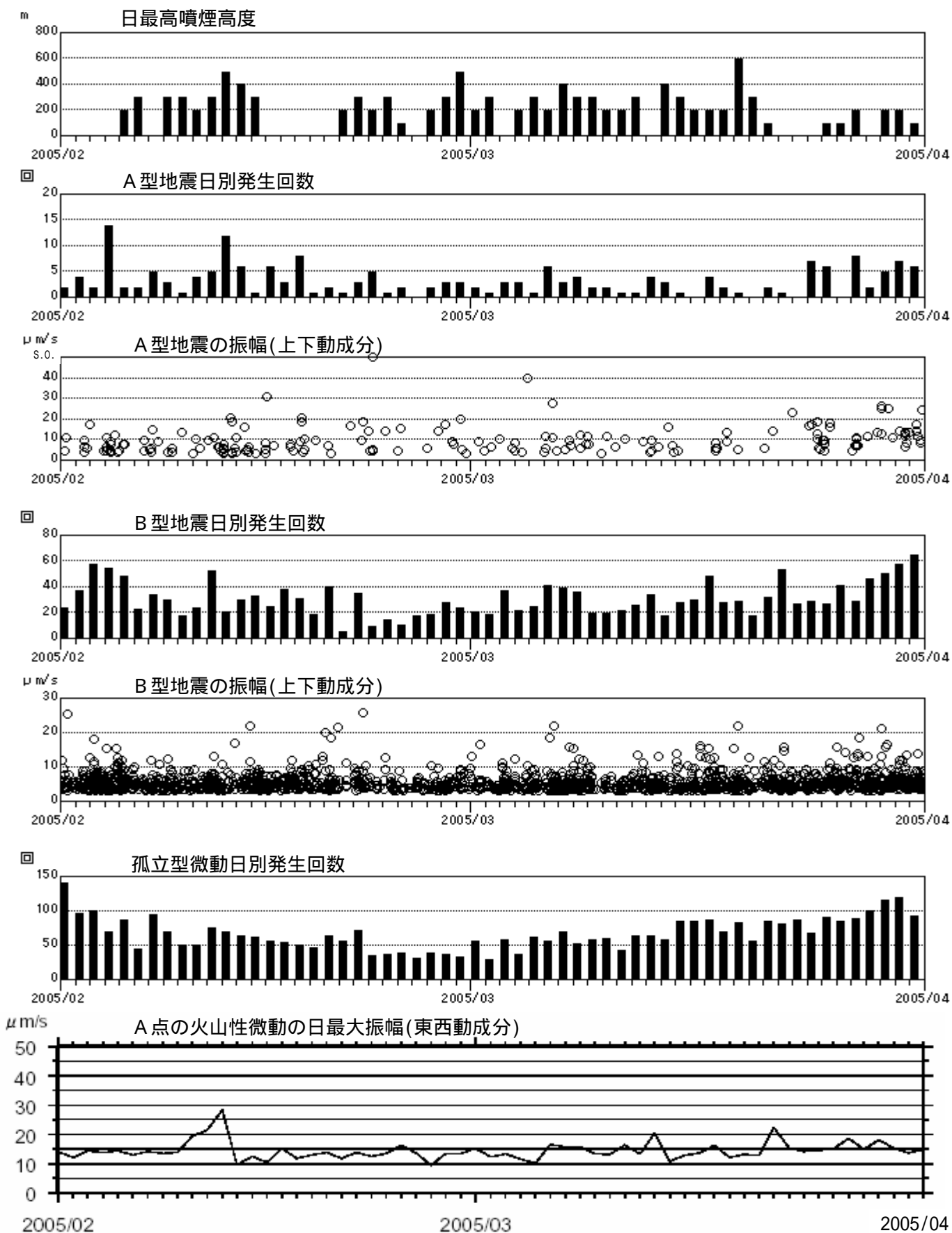


図2 火山活動経過図(2005年2月1日~3月31日)

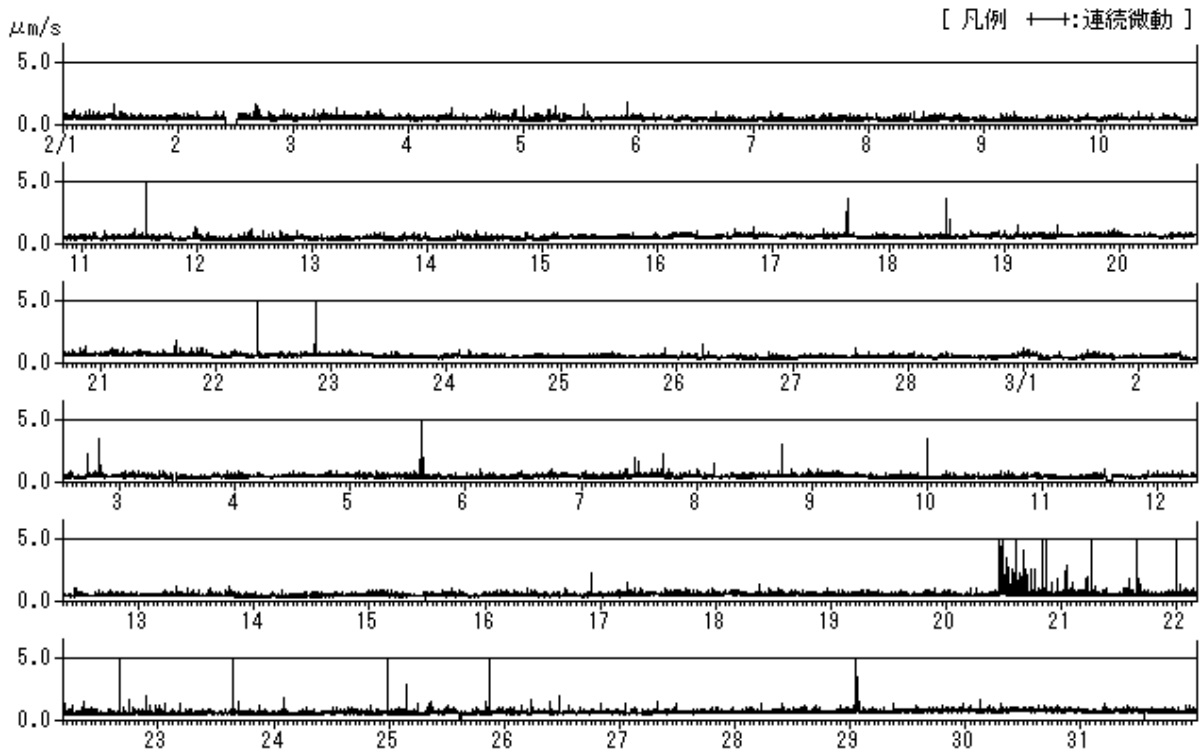


図3 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)(2005年2月1日~3月31日)

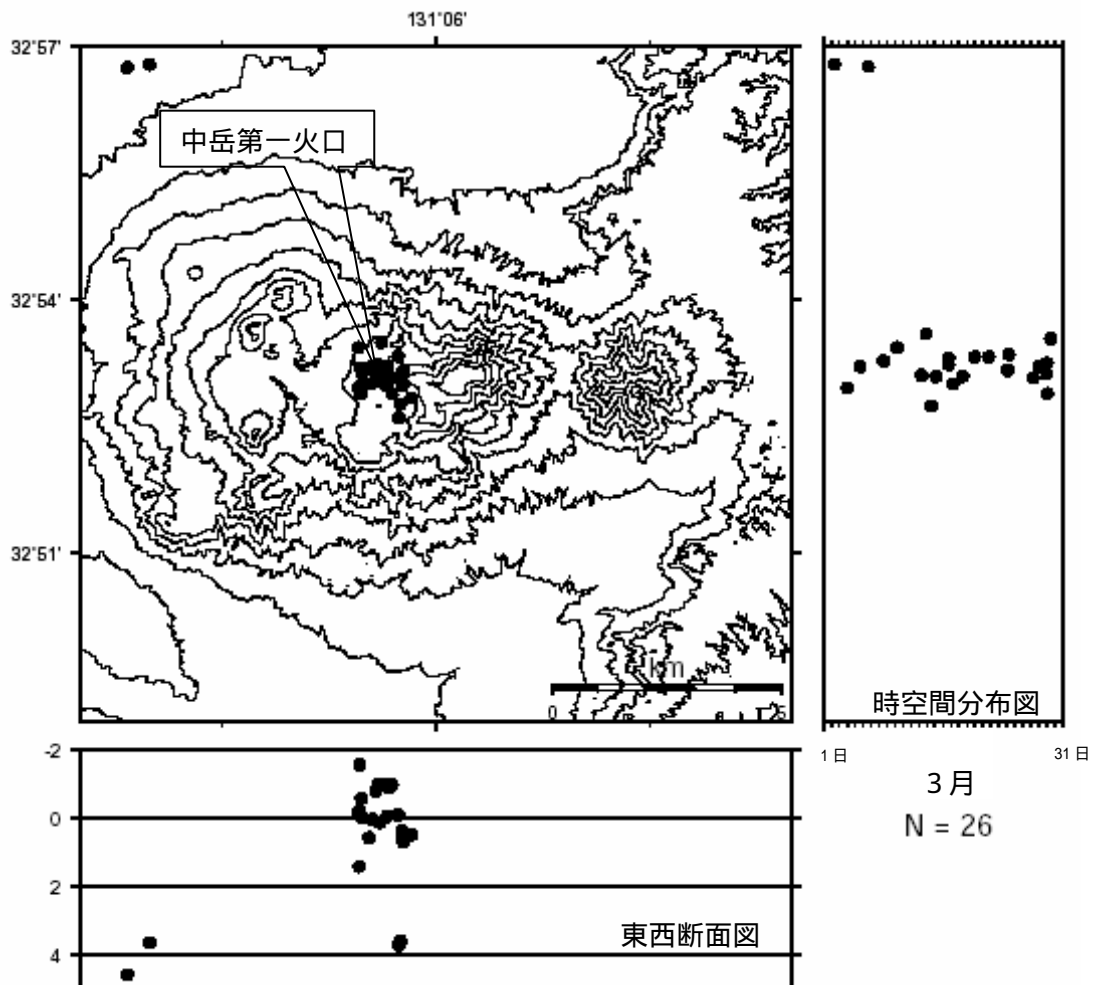


図4 火山性地震の震源分布図(2005年3月1~31日)

阿蘇山

本資料は、防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成した。



図5 湯だまりの状況(第一火口南側から撮影：2005年3月30日)
 湯だまり量は約3割で、湯だまりの色は灰色。
 中央部で約10m、その他数ヶ所で2～3mの土砂噴出が見られる。

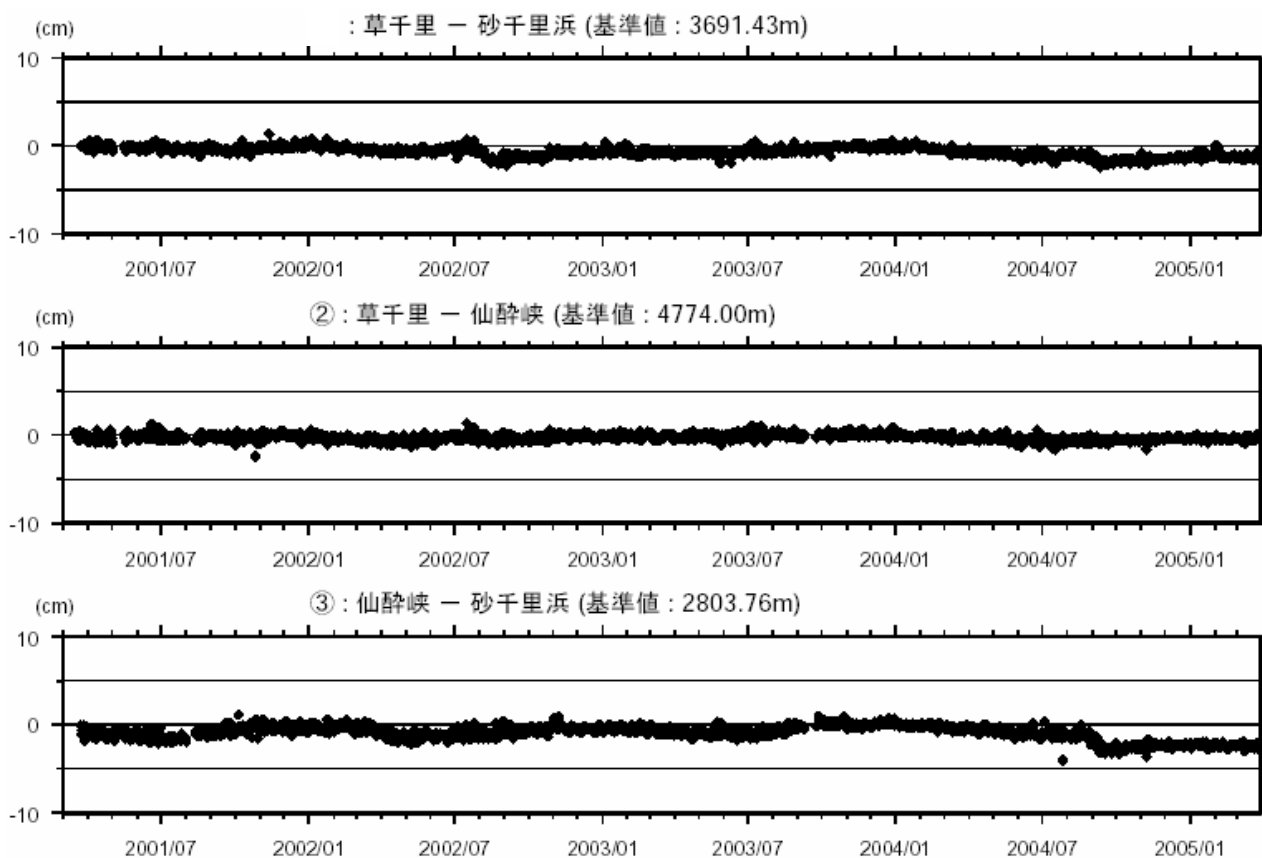


図6 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日～2005年3月31日)

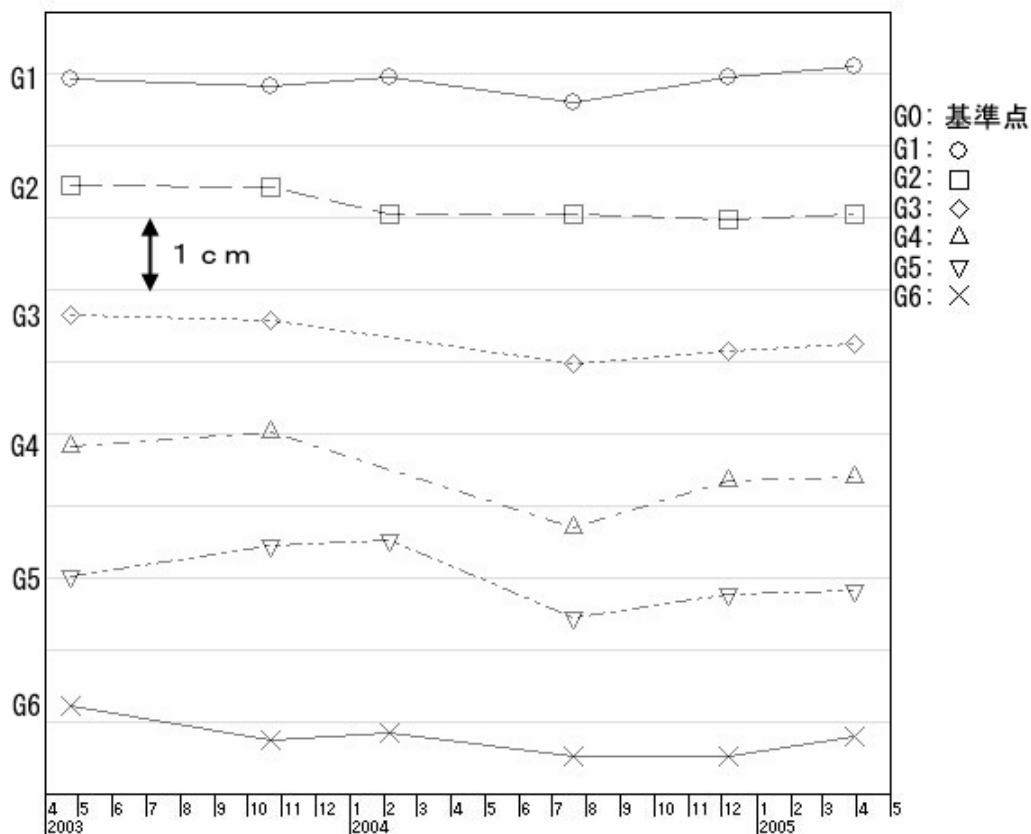


図7 GPS 繰り返し観測による基線長変化(2003年4月~2005年3月)

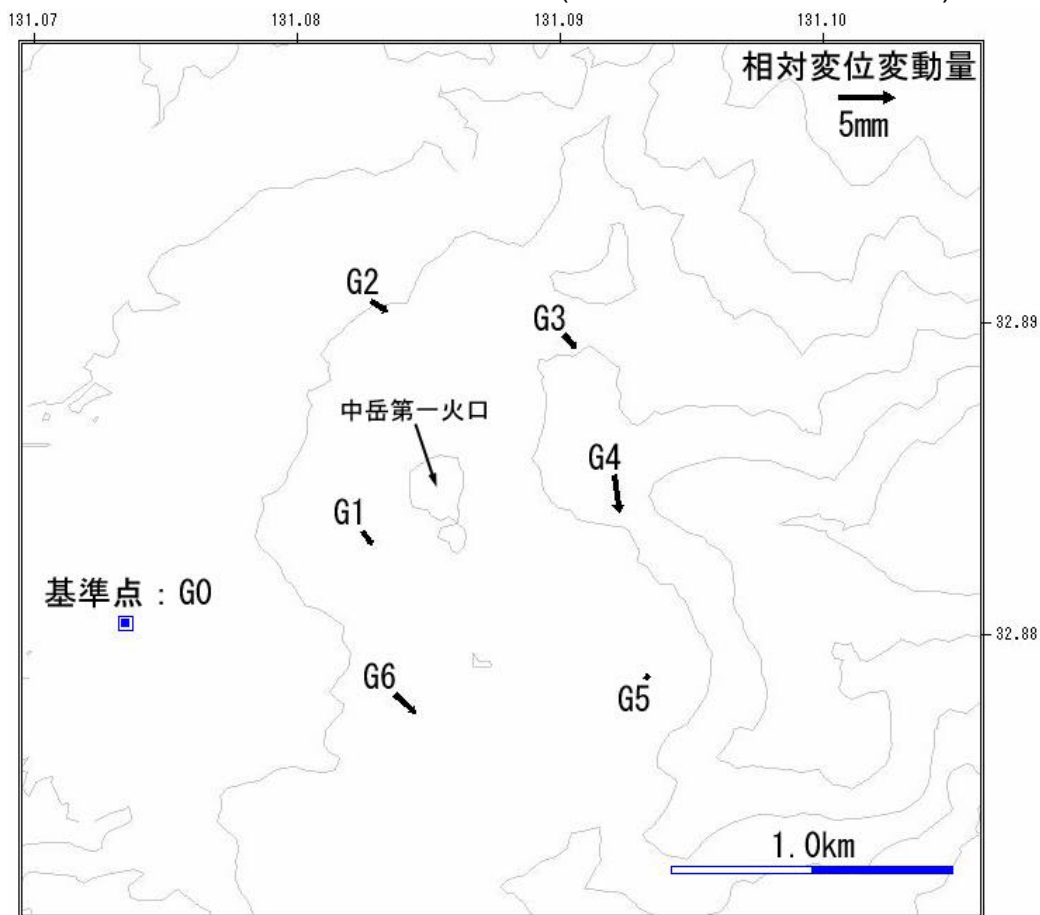


図8 GPS 繰り返し観測の変位ベクトルと観測点の位置(2004年12月-2005年3月)

阿蘇山

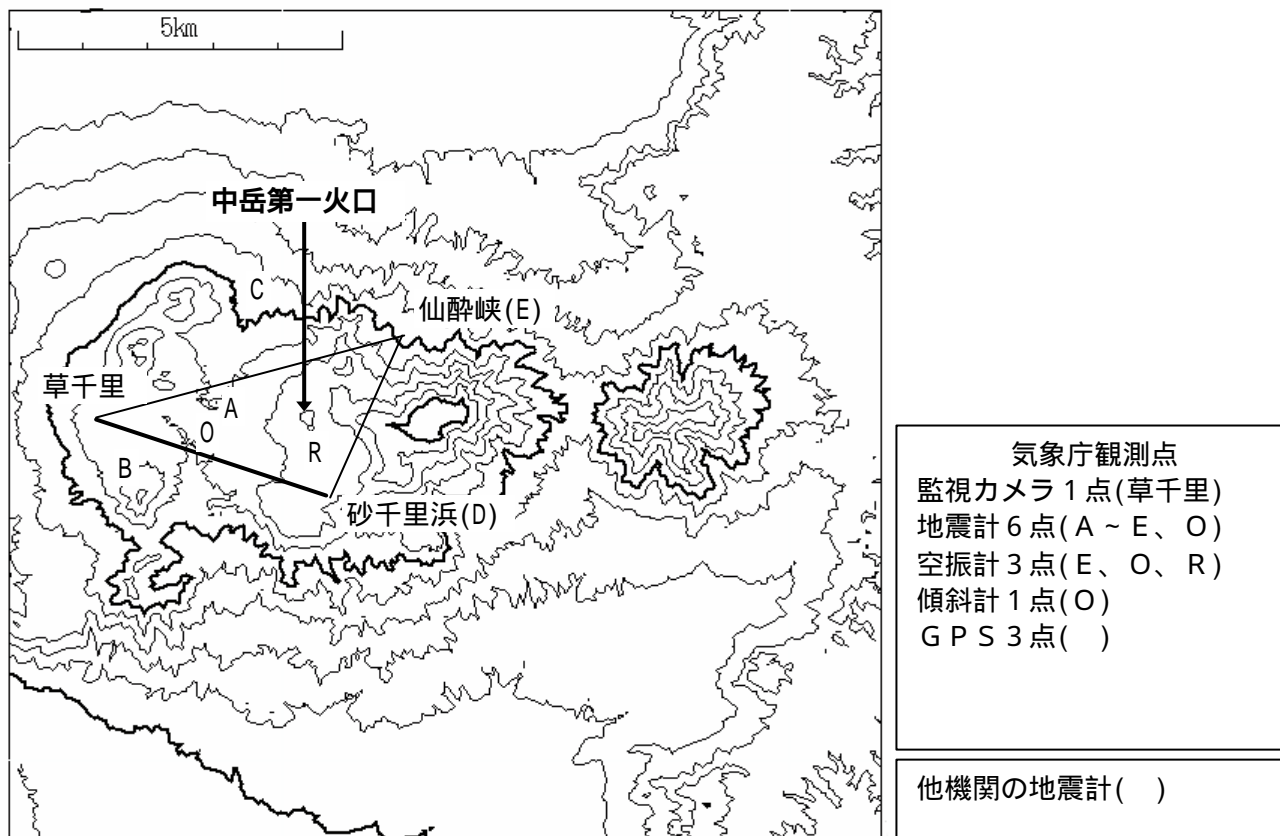


図9 観測点位置図